

教員免許状更新講習(選択)のご案内

「伝え合い、理解し合う集団のために」

教師が日々の教育活動で必要とする‘つながる力’や‘関係づくり’に焦点化した講習です。指導の困難な生徒、思春期にある生徒、ストレスを抱えている生徒、あるいは多様なニーズを持ってくる保護者などへの対応について、事例を交えながら心理学の専門知識を提供しつつ検討してゆきます。さらに、生徒同士が‘つながる’ための具体的実践活動でもある、ディベート学習の手法についても知識やスキルの獲得を目指します。

講習実施要領

(次頁に各実施日の内容および担当講師の紹介があります。)

実施日	講習名	時間	開催場所	対象職種	受講料	定員
平成27年8月19日(水)～ 平成27年8月21日(金)	伝え合い、理解し合う 集団のために	18時間	広島県東広島市 (広島国際大学 東広島キャンパス)	現職の中高教諭	18,000円	25名

受講の申し込みについて

文部科学省ホームページ 更新時期確認ページ
http://www.mext.go.jp/a_menu/shotou/koushin/003/index.htm

- ご自身の教員免許更新時期をご確認ください。
- 広島国際大学のホームページの教員免許更新講習に関するページより「**受講申込書**」および「**課題意識調査票**」をダウンロードし、内容を記入して、**右記の申込み先に郵送**してください。
 - ◆ 申込期限：2015年7月3日(金)当日消印有効
(※定員になり次第、締め切ります)
- 申込期限終了後、広島国際大学より受講案内を送付します。
- 講習初日に、身分証明書および受講料を持参の上、受講してください。
- 講習の最後に履修認定試験をおこない、合格された方に大学より履修証明書を発行し、送付します。

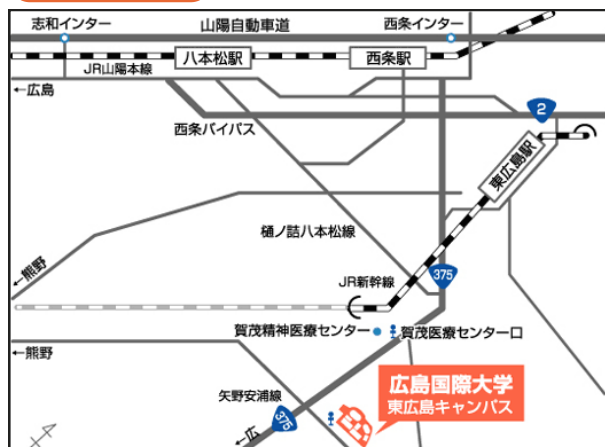
本講習は、平成28年3月31日現在及び平成29年3月31日現在で、**満35歳、45歳、55歳の方を対象**としています。
(平成28年3月31日及び平成29年3月31日に修了確認期限を迎える方)

年齢	生年月日
平成28年3月31日現在 満35歳 平成29年3月31日現在 満35歳	昭和55年4月2日～昭和56年4月1日 昭和56年4月2日～昭和57年4月1日
平成28年3月31日現在 満45歳 平成29年3月31日現在 満45歳	昭和45年4月2日～昭和46年4月1日 昭和46年4月2日～昭和47年4月1日
平成28年3月31日現在 満55歳 平成29年3月31日現在 満55歳	昭和35年4月2日～昭和36年4月1日 昭和36年4月2日～昭和37年4月1日

【申込み・問い合わせ先】

〒739-2695 広島県 東広島市 黒瀬学園台 555-36
広島国際大学 心理学部 事務室
電話：0823-70-4851 (月～土 9:00-17:00)
メール：k-nagosi@ofc.hirokoku-u.ac.jp (担当：名越)

会場案内



- JRバスおよび広電バス「広島国際大学」下車(西条駅、呉駅、広島バスセンター、熊野営業所等からの最新の時刻表は各バス事業者HP等でご確認ください)。
- 車でお越しの方はキャンパス内の駐車場をご利用いただけます。

【会場】

〒739-2695 広島県東広島市黒瀬学園台555-36
広島国際大学 東広島キャンパス
2号館 5階 多目的室(予定)

各実施日の内容と担当講師の紹介

8/19(水)

なぜいまディベート学習なのかー実践を通して学ぶディベーター

近年、初等・中等教育のあらゆる機会を通して、児童・生徒の論理的思考力を育成することが求められています。そこで論理的思考力育成の一つのツールであるディベートを取り入れた教育指導法を提案します。受講者自身のディベート体験を通し、学び方・教え方の理解を促します。授業でディベートを行う際に指導者が直面するさまざまな問題についてもディスカッションを行います。

◆鈴木 佳奈

コミュニケーション心理学科講師。本学の学生と県内の小・中・高校生との連携ディベート授業を担当しています。生徒の立場になって、ディベートの準備から試合まで、一連の流れを体験していただきます。

◆久次 弘子

コミュニケーション心理学科教授。元TV局アナウンサー、広島県『ことばについて考える100人委員会』幹事。ディベートを通して、相手の立場に立って考えるということを先生方に楽しく体験していただきたいと思います。

8/20(木)

多様な生徒や保護者へのアプローチを考える

グローバル化や情報化、少子高齢化など社会の急速な変化に伴い、求められる教師像が変化する一方で、生徒や保護者の抱える課題やニーズも複雑化・多様化しています。本講習では、多様な保護者の理解と対応方法、および生徒指導に関する「教育の倫理的態度の追求」と「道徳教育の充実」に迫ります。

◆河本 肇

心理学科教授。保護者と良好な関係性が築かれることは、学級経営のみならず、教員自身のメンタルヘルスにも大きく作用します。保護者の理解や対応のあり方についてお話しします。

◆竹田 敏彦

広島県立教育センター企画部長・副所長、広島県教育事務所所長、広島県公立中学校校長、広島大学附属学校再編計画室室長等を経て、本学心理科学部教職教室主任・教授。「体罰の禁止」と「ミュージカルの創作による道徳教育」について取り上げます。

8/21(金)

教師と生徒の心身のケアの最前線は？

生徒も教師もストレスから生じた気持ちを上手に言葉で表現できないことも多く、身体（からだ）の不調として訴えます。「朝、起きることができない」「身体がだるい」「お腹が痛い」「ずっと眠い」などです。まず、ストレスから由来する身体症状に焦点をあてながら生徒と教師の心と身体のような症状について述べます。さらに、より教師に焦点をあてて、状況や出来事がストレスへと展開していく仕組みについて述べ、ストレスのチェック、対処法、について現場で活かせるよう具体的に述べます。

◆森本 修充

心理学科教授、精神科医。思春期の生徒（主には高校生）や高校の先生方へ臨床的なアドバイスを数多く経験。これまで経験した多くの事例をもとにお話しします。

◆森本 浩志

横浜認知行動療法センターカウンセラー、社会福祉法人浴風会浴風会病院心理士を経て、本学心理学科助教。学校でのストレスマネジメントについて実習を交えながら、紹介します。